

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171900067		
法人名	有限会社東海ケア		
事業所名	グリーンホームかさほら		
所在地	岐阜県多治見市笠原町4406番地の1		
自己評価作成日	令和7年9月29日	評価結果市町村受理日	令和7年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2171900067-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2171900067-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者が家にいるような感じで過ごして頂ける様にと心掛けている。ご家族様とのコミュニケーションをよく取れる様に努めている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、家族との信頼関係を築きながら 利用者支援に取り組んでいる。職員は、利用者との会話、聞き取りなどに時間をかけ、個々の想いを把握できるよう努めている。代表や管理者をはじめ、ベテラン職員や外国籍職員等、利用者を支援する者は対等な立場でケアに当たることし、意見交換をしながら、支援の実践に取り組んでいる。今回の外部評価では、全職員が参加して自己評価作成にあたっており、意見も集約されている。利用者中心のケアが行われているかを振り返る機会となり、改善点を見出し皆で検討しながら、質の高いチームケアを目指している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆で意見を出し合って理念を作成し、理念の内容も内部研修で深めています。毎日の引き継ぎ時や月一回のミーティングで唱和して。理解をすると共に実践に繋げています。理念として地域の交流を深めています。	昨年、外国人スタッフにも解り易くするため、理念を作り直している。「毎日元気で笑ってゼロ災で過ごす」「怒れたら6秒ルール(一呼吸する)」を掲げ、利用者も職員も笑顔で過ごせるよう支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方による踊りや歌を披露して頂いたり、子供神輿を見物。福祉祭りで作品を出品、回覧板で施設の様子を報告したり、古着、タオル等呼びかけ頂いたり、交流を深めています。	自治会に加入し、「グリーンホーム通信」を回覧版にて、ホームの活動を発信している。地域行事にも積極的に参加している。利用者が楽しみにしていた子ども達との交流は、コロナ禍以降休止しているが、再開を依頼する予定である。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にてホームの取組や利用者の状況、行事の報告を行い、参加者から意見を頂いてサービスの向上に活かしています。ホーム、家族様のみで決められない事業を会議で決めたりしています。	自治会や民生委員など、地域から複数の参加を得て開催している。玄関の施錠について、全家族に意見を求め、運営推進会議構成員と共に話しあった結果、1か所のみ施錠することとなった。毎回多くの意見が出され、運営に活かしている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所、地域包括支援センターの担当者が運営推進会議に出席して頂きご意見を頂いている。協力関係を築くように取り組んでいます。市役所からのメール連絡。市内のケアマネ協議会に出席。	市役所からの連絡はメールが多いが、相談などは窓口に出向き、助言指導を得ている。運営推進会議が夕方開催となったが、必ず、市や地域包括支援センター担当者の参加を得ることができている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に一回身体拘束の内部研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関の施錠においては1か所のみ家族様の同意を得て施錠をしています。	身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束の有無の確認、スピーチロックやドラッグロック等について話し合っている。委員会後には、内容を職員に周知している。年2回研修を行い、職員はレポートを提出、管理者が理解度や問題点をチェックしている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待は絶対ない様に防止に努めています。年に2回の内部研修や虐待防止のためのチェックシート等を利用しています。色々な観点から防犯カメラを設置。虐待防止法について正しく理解し、虐待が見過ごされる事がないように常に注意し防止に努めています。	虐待防止委員会を定期的に開催している。管理者は、職員の疲労やストレスがケアに影響することのないよう、常に気を配っている。特に、アンガーマネジメントについては、「6秒ルール」を理念に掲げ、職員同士で防止の徹底に努めている。	

岐阜県 グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について内部研修で学ぶ機会を持ち支援しています。過去に成年後見制度を利用されている方がおられ理解しています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時は必ず説明を分からない点や疑問に思う事はいつでも頂くよう申し上げています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは意見、要望が話しやすいよう信頼関係を築く努力をしています。家族等とは面会時などに要望や話せる機会を設けています。運営推進会議に参加でき、意見を述べて頂いています。	利用者の状態に変化があった時は、その都度LINEで家族に伝えている。月に1度、状況報告の際には写真も載せて報告している。面会時にも、普段の様子を伝えながら、時間をかけて要望や意見を聞き取り、信頼関係を築くよう努めている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見や提案を聞いて頂ける。ミーティングや仕事の合間等機会があります。代表や管理者も他の職員と現場で働く事が多い為、常に意見や提案を聞くことが出来る。	管理者と職員は、ケア現場で共に利用者に関わり、改善点があれば、話し合いながら支援している。代表も、わずかな時間であっても、1対1で職員の話聞くよう心掛けている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員の希望や職員同士の相性を考慮したシフトを組み、向上心を持って働けるよう努めています。休みを自由に取れるように(連休2~3日)有給も取れ、早番、遅番、夜勤も出来る限り自己の意見を聞き入れるようにしています。	事業所は、社会保険労務士とも話し合いながら、職員の勤務体系などの改善を図っている。休憩時間は、現場から離れた場所で、ゆっくりと休憩を取れる環境となっている。希望休や勤務時間帯など、シフト調整をしながら、働きやすい職場環境作りに努めている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度内部研修を行い、知識を深めています。外国人職員には母国語に翻訳した資料を用意しています。代表者は職員のケアの実際と力量を把握し法人内外の研修を受けるようにしています。	管理者は、職員の経験値やスキルの習得度に応じて、学びの機会を与えている。外国人職員には、翻訳資料を用意して支援している。資格取得の費用や勤務時間に配慮しながら、専門知識や介護の力量を上げられるようサポートしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者と管理者が同業者と電話で話す機会がありますが、コロナウイルス流行以降同業者との交流が減っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安全で安心な生活を送れるようにお互いに助け合いが出来、家族の一員のような関係になれるよう努めています。職員は、本人を介護される一方の立場に置かず本人が困っていること、不安なこと要望等に耳を傾け、支え合い信頼関係を築けるよう努めています。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの暮らし方の希望、意向の把握に努めています。日常生活で本人と話し合い、本人がどうしたらいいかわからない場合は本人と一緒に検討している。自室で休みたい方、テレビを観たい方、家族と外出したい方	職員は、本人から、今までの生活歴を聞きながら、その利用者の「人柄」を知り、さらに思いや意向を理解するよう心掛けている。知り得た情報はタブレットのコメント欄に入力し、職員間で共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らすための課題とケアの在り方について意見や現状に即した介護計画を作成しています。個人個人に担当者を決め日頃の様子を把握し課題、ケアの在り方について職員、家族、主治医と意見交換しています。	介護計画作りは、アセスメント、ケア会議、モニタリングのそれぞれの記録について話し合い、検討している。更に、家族や主治医の意見を参考にしながら、介護計画を作成し、支援内容の共有を図っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、変化、気づきをタブレット(個別記録)に入力、職員間で情報共有や現状把握し、引継ぎ介護計画の再検討やケアに活かしています。タブレットを導入することで効率化を図っています。	職員は、タブレットでの入力記録及び口頭での引継ぎにて、情報を共有している。重要な事柄については、誰でも分かるように、メモを貼り付けて、共有洩れのないよう工夫している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に対応して支援やサービスに取り組んでいます。本人、家族の希望によりリハビリマッサージを続けています。通院が困難な場合介護タクシーを利用。付き添い。訪問看護における医療サービス利用。出来る限り実現できるよう努力しています。	利用者と家族の希望や要望を正しく聞き取り、両者が満足感を得られる支援の提供に取り組んでいる。家族の都合が悪い時には、職員が家族に代わって、生活用品等の買い物支援を行うこともある。	

岐阜県 グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	炎天下が続き、最近では出来ていない。地域で行われているイベント(弘法様、子供神輿や福祉祭り)に参加。ボランティアによる歌や踊り等。入居者に楽しんで頂けるよう支援していきます。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回訪問診療をかかりつけ医により受けています。急な時、家族が連れていけない時等は家族と連絡をとり対応しています。必要なら他の医療機関の受診が出来るようにしています。	かかりつけ医は自由に選択できることを説明しているが、現在、ほとんどの利用者が協力医を選択している。月2回の訪問診療を受け、緊急時や急変時の支援について、指導を受けられる体制がある。看護師が利用者の日常の健康管理を行い、医師と連携を図っている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際安心して治療し早期退院できるよう病院関係者との情報交換や相談に努めています。コロナウイルス感染症拡大前は入院中に見舞いに行き、着替えを取りに行き直接意見交換出来ましたが今は電話で情報交換をしています。	入院時には、かかりつけ医の紹介状を持って、代表が対応している。退院の可・不可を確認し、病院や家族と連携しながら 早期の退院を目指して、受け入れ準備を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明で終末期について話し、家族の要望を聞き事業所で出来る範囲内の事を説明しています。日々の体調の変化をその都度ご家族に連絡し話し合っています。	利用者の状態変化に応じて、家族と支援方法について話し合っている。安心と納得の得られる支援の提供と体制を整えている。終末期の対応について、様々な状況を想定して研修を重ねている。看取り経験も豊富である。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っています。消防署の方より救急救命講習を受けAEDの使い方を学んでいます。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPや避難計画のマニュアルは見える場所に設置しています。回覧板で災害ボランティアを募集しましたが集まりが悪い。車椅子の方が多く安全な行動をとれるようにしたいです。運営推進会議にて避難訓練等の報告や意見交換を行っています。	夜間想定を含め、年2回の避難訓練を行っている。救急救命講習も受講している。地域の防災訓練にも参加している。感染症に関する対策会議を3ヶ月に1回開催し、災害への対策を幅広く考えながら、適切な支援が行えるよう取り組んでいる。	地震、水害を含めた災害対策について、地元住民から地域の歴史や経験などを聴いている。地域全体で災害対策を話し合いながら、利用者が安全に避難できる支援方法についての話し合いに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<p>毎日頃ひとりひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしています。内部研修にてプライバシー保護を学ぶ機会を設けています。方言(東濃弁)がきつく聞こえる。難聴の方にホワイトボードで伝えています。</p>	<p>職員は、接遇やプライバシー保護についての研修を受けている。常に年長者として、利用者に敬意を払い、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。また、利用者の自己決定を尊重し、思いに寄り添った支援を心がけている。</p>	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<p>日常生活で希望など自己決定できるよう働きかけています。体操やレクリエーション活動。入浴は本人の自己決定で行っています。自分で表現出来ない方は二者択一にて自己決定出来るよう支援しています。</p>		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<p>体操の参加。不参加。部屋で休みたい等。その人に合わせて支援しています。無理強いをしない。職員の決まりや都合を優先するのではなくひとりひとりのペースを大切にしたいか利用者の方に沿っています。</p>		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<p>食事を楽しいものになるように盛り付けなど好みなど気を付け支援しています。ひとりひとりの好きな果物を献立に入れています。この夏の暑さのせいか認知症の進行で、出来なくなった方も。出来る方は他の方の下膳やテーブル拭き等を一緒に行っています。</p>	<p>朝食は事業所で手作りしている。昼と夜は主食と汁物を職員が作り、主菜と副菜は配食サービスを利用している。管理者が同じものを食べて味・量を確認している。おやつは、利用者の食べたいものを聞いて、一緒に作ることもある。</p>	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<p>ひとりひとりの食事と水分摂取量の把握。水分摂取が取りづらい方はゼリーや果物で水分を補います。栄養摂取が出来ない方はは栄養価の高いエンシュアリキッドで補います。</p>		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<p>毎食後歯磨きやうがいをします。歯磨きが困難な方は口を漱いだり、口腔ケアスポンジを使用しています。口を開けなかったり、うがいが分からず水を飲みこむ方も。</p>	<p>毎食後に口腔ケアを行っている。利用者個々の状態に応じて見守りで支援したり、困難な部分を介助している。治療が必要な場合は、家族と相談して協力歯科の往診に繋がっている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自分で行う方は見守ります。車椅子の方は手すりの近くまで移動し、手すりにつかまって立って頂き衣類の着脱介助を行っています。毎日の記録をタブレットに入力。ひとりひとりの排泄パターンを把握しながらトイレ誘導しています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴したくない時等本人の意思を尊重しています。入浴を楽しめるよう会話等でコミュニケーションを取っています。ひとりひとりの温度や時間を把握。入浴剤を入れていません。時間は決まっていますが出来るだけ本人の意思を反映させています。異性の介助を嫌がる方は同性の職員が介助。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファのやベッドで休んで頂いています。就寝時ひとりひとり安心できる照明の調節。お話をして気持ちよく眠れるよう支援しています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書を分かる所に置き、薬が新しくなった時、変更した時は職員で共有出来るようにしています。お薬の誤薬が無いように準備する人と服薬介助する人と2人でダブルチェックしています。利用者の様子を観察し、訪問診療時に医師に報告。薬の副作用があれば相談します。	薬の管理は管理者が行っているが、薬効は全員で共有している。薬の変更があった場合は、全職員に薬剤の説明をし、重要な事柄は張り紙をして、必ず全員が確認するようにしている。また、利用者の様子に注意して、変化が見られた場合は医師に報告している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション活動は作業が好きな方(塗り絵、新聞紙でエコ袋作り等)歌が好きな方はカラオケ、それぞれに合ったことをさせています。誕生日会を開きお祝い。	利用者の生活歴から、好きなことや出来ること、楽しみにしていることを探り、役割に繋げながら生活に張りを持てるよう支援している。職員は、作業の後には感謝の声掛けを心がけ、自信につなげている。グループホームの歌を皆で歌って楽しむこともある。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候がいい日は外へドライブ。家族の方の希望あれば行きつけの美容室や喫茶店へ出かけています。花見など季節の行事、弘法様回り、福祉祭りの作品出品と展示会を見学しています。	天候に合わせて、季節の花見などのドライブに出かけている。家族と外出をする人もある。車椅子の利用者が多くなり、全員揃っての外出は難しく、少人数ずつに分けての外出支援を工夫している。	コロナ感染や体調変化により、外出の機会が減っている。事業所前の空きスペースを利用して、外気浴をしながら気分転換を図れるような支援にも期待したい。

岐阜県 グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金、貴重品の管理はしていません。少額持ってみえましたが、紛失もありました。家族の方と話し合い家族の方が管理しています。敬老の日のお祝いで商品券を預かっています。その方の要望される時に使用しています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、出来ることを支援しています。電話をしたい時に家族に連絡できるようにしています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃。花を飾ったり、カーテンを開け日光を入れ快適に過ごせるようにしています。壁に季節を感じられる作品を貼ったり飾っています。	整理整頓された共用の空間には、季節の花や利用者が作った作品を飾っている。ボランティアによる催しを行なえる大広間があり、広いテーブルや複数のソファを設置している。利用者のカラオケを楽しむ場にもなっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりひとりの居場所。居眠りをしたり、テレビを観たり、新聞を読んだり、ものづくりをする。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切にしている物、好みの物、思い出の写真などを部屋に置き、居心地良く過ごせるよう配慮しています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は安全で出来るだけ自立した生活が送れるように手擦り等で工夫しています。職員が見守り洗濯物を干したり、畳むなど出来ることをして頂いています。		